

申22号「2022年度賃金引上げ等に関する申し入れ」会社回答に対する中央本部見解

2月17日、JR東労組が申22号「2022年度賃金引上げ等に関する申し入れ」を提出して以降、組合員一丸となって本部交渉団と共にたたかい抜いて頂いたことに感謝を申し上げる。また、3月16日23時36分ごろ福島県沖を震源とする最大震度6強の地震により、東北地方を中心に東日本エリアの広い範囲で在来線及び新幹線で運転見合わせが発生している。運転再開までには相当な時間を要する見込みが報じられている。中央本部は、被災に遭われた皆さまにお見舞い申し上げると共に、復旧に向けては、組合員・社員の安全確保を最優先に、最大限協力するものである。

3月17日、JR東日本から「ベア0」「定期昇給・昇給係数4」という回答がされた。到底、要求には及ばず、コロナ禍で奮闘する組合員の努力と生活を顧みないものであり、21春闘でカットされた定昇分の支給もなく生涯賃金は下がり続けたままとなる。中央本部は到底納得出来る回答ではない！

中央本部は、会社回答に対する組合員などの声を集約し、今後のたたかいについての組織的な判断を行うことを決定した。全組合員とJR東労組に期待を寄せる社友会・未加入者の皆さんにも、22春闘会社回答に対する声を中央本部に集約することを要請する！

JR東労組は、21春闘の敗北から、組合員の切実な生活実感や労働実感の声を第一に期末手当などのたたかいを積み上げ、職場や支部・地本を拠点とした学習会などを含めた活動の強化と掲示板なども活用し、職場と本部交渉団が一体となったたたかいをつくり出してきた。

特に「22春闘緊急アンケート」では、3月7日までの6日間で社友会・未加入者の声を含む約7500件の声を集約した。また、未加入者と共に本部に激励に来て頂いたことなど、交渉団に勇気と力が与えられた。さらに、JR総連春闘としてたたかいをつくり出している過程で、16日に、JR北海道労組は、「21年連続ベアゼロは認められない」と強く再考を求め、21年ぶりにベア500円の有額回答を引き出した。このことは、統一要求・統一闘争の意義からも私たちのたたかいの後押しとなり、22春闘が連帯したたたかいであることを実感した。

そのたたかいの結果、定期昇給は完全実施された。しかし、会社は「足元の業績」「赤字」「有利子負債」を理由に定期昇給の完全実施以外の要求を跳ね除けた！21春闘では「ベア0」「定昇2カット」、期末手当では「年間4ヶ月」という、職場の努力に報いない回答がなされ、職場から不満や不信感などに加え、生活に対する不安と人材流出を危惧する声が出された。

2022年は瞬間的には2%程度の物価上昇が予測される中で、ロシアによるウクライナ侵攻でさらなる物価上昇の危機に直面している。1世帯あたり約4700円の負担増が見込まれる中で、社会保険料の値上げにより、月平均1650円以上の値上げになれば、定期昇給4では実質賃下げとなる。そして、55歳以上の組合員の賃金は上がらない。だからこそベアが必要なのだ！団体交渉で会社はその声を「受け止める」との回答を連呼したが、この間貫かれた経営姿勢は変わっていないのではないかと言わざるを得ない。

会社は、ベアゼロの理由を赤字としている。

会社は、この間の春闘や期末手当の回答書で「コントロールできる幅の少ない固定費の占める割合が大きいという鉄道事業の特性」だと繰り返し述べているが、第3四半期の決算では人件費は2721億円に対し、営業収益は1兆797億円だ。年々社員一人当たりの働き度は増し、私たちは人件費以上の収益を上げているのだ。赤字の責任を労働者だけに転嫁することは許さない。

組合員の生活や職場の声を顧みない経営姿勢を踏まえれば、中央本部は22春闘の会社回答に納得できない！中央執行委員会は会社回答に対する全ての仲間を集約し、共にたたかうことを呼びかけるものである！全組合員で組織を強化・拡大し、JR東労組に期待を寄せる社友会・未加入者の仲間と共に22春闘をたたかい抜こうではないか！

2022年3月17日
東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会